特集　高校生アスリート

― いま、輝くとき ―

青春 youth × 謳歌 praise × 記憶 memory

八代清流高等学校　アーチェリー部

風を読んで射貫いた勝利

広島県のコカ・コーラウエスト広島スタジアムで開催された、高校総体アーチェリー男子団体で八代清流高校が3位に入った。

決勝トーナメント1回戦では、前回準優勝した長崎県の大村工業高校に6対2で快勝。準々決勝は地元の広島工業高校に逆転勝ちを納めた。準決勝は、今回優勝した青森県の三本木（さんぼんぎ）農業高校に敗れはしたものの、3位決定戦で愛媛県の今治東中等教育学校に延長戦の末、競り勝った。

3位決定戦は4対4で延長戦へ。両チームの3人が交互に1本ずつ矢を放ち、合計点数が上回った方が勝ち。

的の最高点数は10点となっており、一番手の上村選手が8点、相手選手が6点。続く園原選手も8点を奪うと、相手選手が的を外したため、2人が終わり16対6とリードした。三番手の本田選手は、当てれば勝ちという状況に「逆に緊張して難しかった」と語った。今日一番の集中力を発揮した本田選手は、見事8点を射貫き勝負を決めた。

上村 丈翔（たける）さん

3位決定戦の延長戦では、高得点を取ってチームを勢いづけられて本当に良かったです。

園原 風斗（ふうと）さん

相手の士気を下げるために、高得点を取ってやろうと思いました。8点取れて良かったです。

本田 海吏（かいり）さん

延長戦では、プレッシャーで手が震えましたが、矢が的中したときは最高の気分でした。

原田 大河（たいが）さん

チームの勝利を祈るのに必死でした。勝敗が決したときは、一気に喜びが溢れました。

八代東高等学校 バドミントン部

全国トップレベルとの差を感じた 来年のインターハイに向けリベンジに燃える

岡山県で開催された高校総体バドミントン男子団体で、八代東高校が7年ぶりのベスト4入りを果たしたが、準決勝で福島県の富岡・ふたば未来学園高校に敗れた。

同校には、今春の全国選抜大会の準々決勝でも敗れており、借りを返そうと選手たちは意気込んでいたが再び屈した。平川透主将は「向かっていく気持ちが足りず、気持ちで押されたと後悔した。

1998年以来のインターハイ制覇に向けて、選手たちは先生を信じて階段を駆け上がる。

平川 透（とおる）さん

昨年のベスト8を上回りましたが、全国制覇を目標に日々練習を重ねてきたために、悔しかったです。

新チームには、今年以上の成績を残してほしいです。

秀岳館高等学校 野球部

春での思いを胸に臨んだ暑い夏…

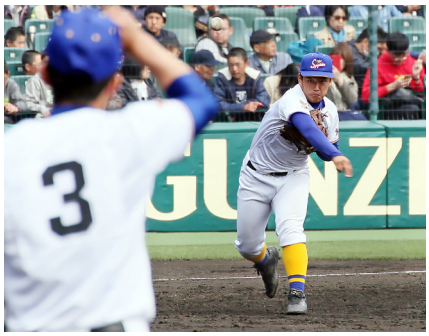
全国高校野球大会第13日目の8月20日、秀岳館高校は準決勝で南北海道代表の北海高校と対戦し、3対4で惜敗した。

秀岳館高校は、昨年の10月に開催された九州地区高校野球で、投打で相手を圧倒し、初優勝を決めた。今春の選抜高校野球でも自慢の打線が爆発し、初のベスト4入りを果たした。

選抜の雪辱を果たす夏の県予選では、同校は順当に勝ち上がり、決勝戦は作夏代表の九州学院高校と対戦。熊本地震の苦難も乗り越え、2001年以来、2度目の夏の甲子園出場を果たした。

県内で、春夏連続ベスト4は秀岳館高校が初となった。

同校の部員らは、熊本地震後に清掃ボランティアにも参加。「熊本に勇気を」という目標を掲げ、甲子園では、勇気と元気を与える躍動だった。



九鬼 隆平（りゅうへい）さん

甲子園では、迫力や雰囲気をプレッシャーに感じることなく、楽しみました。仲間にも恵まれ、甲子園で秀岳館の選手としてプレーできて良かったです。

守備では、内野手のリーダーとしてチームをまとめました。冬からバッティングに力を入れて練習に励んだ結果、甲子園で長打やホームランが打てて良かったです。

松尾 大河（たいが）さん

八代白百合学園高等学校 写真部

全国高校写真選手権で優秀賞

全国の高校生が写真の日本一を決める大会、第23回全国高校写真選手権大会「写真甲子園2016」が北海道東川町で開催された。

今年は、地区ごとのブロック別公開審査会を勝ち抜いた代表18校に加え、熊本地震の復興を応援しようと、白百合高校が特別枠で招待され、優秀賞を受賞した。

各校3人ずつ出場し、1日ごとに異なる3つのテーマが設定され、撮影された8枚の組み写真に対して採点と講評が行われた。

美瑛町（びえいちょう）や旭川市（旭山動物園）などを舞台に、生徒たちは積極的に親子連れなどに声を掛け、シャッターを切った。

白石 真理（まり）さん

ステージ毎にテーマが変わるため、意見が分かれることもありましたが、お互いの意見を尊重し、みんなの意思がまとまるように努めました。

濱田 真由美（まゆみ）さん

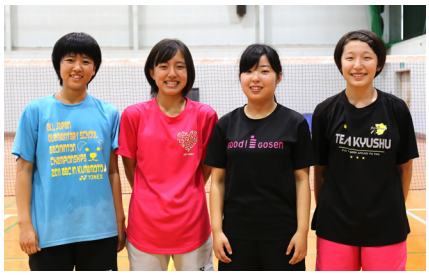
組み写真では、年齢層や構図などの写真構成が大切になります。完成をイメージしながら撮影を行い、最後はみんなで話し合い、最高の組み写真を完成させました。

浦田 怜那（れな）さん

ファーストステージの組み写真では、「笑顔」をテーマに撮影しました。親子連れなどに声を掛け、笑顔を引き出し、家族の温かさを表現しました。

熊本高専八代キャンパス バドミントン部 女子団体

皆の思いがシャトルに宿った 初栄冠までの軌跡



8月20・21日に富山県の高岡市民体育館で「第51回全国高等専門学校体育大会」のバドミントン競技が開催され、熊本高専八代キャンパスが女子団体戦で初の栄冠を手にした。

準決勝まで1セットも落とすことなく順調に勝ち進んだが、決勝の相手はこれまで一度も勝ったことがない北九州高専。ダブルスを落としてしまい後がない状況になったが、シングルスで2連勝し、2勝1敗で初優勝を飾った。

勝利が決まった瞬間、選手同士は抱き合い、涙とともに笑顔が溢れた。

真﨑 悠里香（ゆりか）さん

北九州高専には、これまで勝ったことがなかったので、必ず勝ちたかったです。

勝った瞬間、達成感を感じ、泣いてしまいましたが、本当に嬉しかったです。

試合では、勝ってチームに流れを作ることを意識しました。

先輩たちにとって最後の大会だったので、優勝という最高の形で終われて良かったです。

横山 瑞海（みなみ）さん